

④崩壊した棚田を大幅に使いやすく

乙ヶ瀬地区 (南阿蘇村)
代表 藤原 敏行 氏



藤原 敏行 氏

『遠い熊本から応援しております。』

熊本地震では、崩壊した田んぼを見て愕然としました。復興した後は、みんな喜んで栽培に取り組んでいるところです。皆さんもこれから生活基盤を整えながら、復興に大変だろうと思いますが頑張ってください。応援しています。

復旧・復興の歩み

震災前	被災 (平成28年4月)	再建 (約4年間)	現在
・ 作目 稲作 ・ 規模:23ha (15a/筆) ・ 労働力:15名 ・ 担い手への 農地集積率:11%	・ 山腹崩壊により、大量の土砂が棚田に流入 ・ 倉庫が全壊し、農業用機械も被害 ・ 地区として30戸のうち20戸の家屋が全壊 ・ 停電、断水、道路への被害で一時孤立	・ 補助事業を活用して倉庫等を再建 ・ 県の基盤整備事業により農地を大区画化・汎用化 ・ 事業完了までの間別の圃場で稲・牧草を栽培	・ 作目 稲作、白菜、高菜、里芋 ・ 規模:18ha (34a/筆) ・ 労働力:15名 ・ 担い手への 農地集積率:82%

復旧・復興のポイント

- ・ 被災直後の棚田を目の当たりにし、一時は再開を諦めかけたが、県から農地の大区画化や担い手への農地集積を行う基盤整備事業の提案があり、仲間で話し合い全員一致で再開を決意した。
- ・ 水田の汎用化による高収益作物(白菜、高菜、里芋)の導入により、農業生産性が向上し、併せて担い手への農地集積も大幅に増加した。



被災直後の棚田



現在の棚田